

常磐線  
舞<sub>ニ</sub>台<sub>三</sub>  
芸<sub>ニ</sub>術<sub>三</sub>祭

JOBAN LINE PERFORMING  
ARTS FESTIVAL 2023

---

公式ガイドブック  
OFFICIAL GUIDEBOOK

---

# 「手繰り寄せる、線を」

文・小松理虔

わたしたちは線を引く。

わたしとあなた、自国と他国、

北と南、東と西。

いつの時代も、どの土地でも、

わたしたちは線を引き、

自分たちが何者であるかを知ろうとしてきた。

そしてまた、わたしたちを「圏内/圏外」というように切り分け、

「来てはいけない土地」を作りもした。

けれど、内と外をつなぐのも線だ。

道によって点と点は線となりヒトとモノはめぐる。

共感や情という線は、その姿形は見えなくとも、

わたしとあなたを隔てていた

もう 1 本の線を溶かし、あるいは超え、くぐり抜けてゆく。

そのことを、わたしたちは大きな災害を通じて感じ取った。

線は、わたしとあなたをつなぐだろうか。

それとも、分かち断ただろうか。

わたしとあなたの線。

演者と観客の線。

生者と死者の線。

圏内と圏外の線。

線は今、どこにあるのか。どこに引かれていたのか。

考え、そして問いたい。

だから、わたしたちは、手繰り寄せる。

その線を。

# 常磐線舞台芸術祭 2023

「常磐線舞台芸術祭」とは、福島県を中心とした常磐線沿線で繰り広げられる舞台芸術の祭典です。今夏、7月31日～8月13日を会期とし、「つなぐ、」をテーマに第一回を開催いたします。芸術祭の中心となる福島県の常磐線沿線は、東日本大震災によって被災し、未だその爪痕が色濃く残る地域です。物理的な被害もさることながら、その影響による地域ごと、また外部との社会的な「分断」は当該地域における大きな課題となっております。舞台芸術の力をもって、その分断を少しでも「つなぎ」、それぞれが手繰り寄せ、地域のもつ本来の美しさや魅力を再発見し体感してもらうことを目的とした芸術祭です。

「常磐線舞台芸術祭 2023」に係る最新情報を随時配信します。

公式ウェブサイト <https://joban-line-paf.jp/>

Facebook: [joban\\_line\\_paf](#) Twitter: [@joban\\_line\\_paf](#)

Instagram: [@joban\\_line\\_paf](#)



## 目次

|  |      |
|--|------|
| 会場 MAP                                       | p.02 |
| KEYNOTE SPEECH / クロージングイベント                  | p.04 |
| 青春五月党 『JR 常磐線上り列車 - マスク -』                   | p.05 |
| 青年団 『銀河鉄道の夜』                                 | p.06 |
| ザ・レディオ・ミルクィー・ウェイ ラジオ朗読劇 『銀河鉄道の夜』 舞台版         | p.07 |
| 青森中央高校演劇部 × 福島県の高校生たち 『もしイタ』                 | p.08 |
| 青森中央高校演劇部 『ジンコちゃんの世界』                        | p.09 |
| 青年団 『阿房列車』 『思い出せない夢のいくつか』                    | p.10 |
| 日没を祭れ 2023 第一日 『日没、新しい夜明けに』                  | p.12 |
| 日没を祭れ 2023 第二日 『日没よ、鎮まれ。』                    | p.13 |
| 渡辺源四郎商店 『空に菜の花、地に鍼』                          | p.14 |
| 山本卓卓ソロ 『キャメルと塩犬』                             | p.15 |
| 堀川 炎 『窓の外の結婚式』                               | p.16 |
| Voice on Voice                               | p.17 |
| 古川日出男 × 後藤正文 『二つの駅舎、ボイス・オン・ボイス』              | p.18 |
| 柳美里 × 尾崎世界観 『JR 常磐線夜ノ森駅』                     | p.19 |
| 和合亮一 × 田島貴男 (Original Love) 『浜通りと中通りの境』      | p.20 |
| 佐藤厚志 × Miya 『荒地の家族』                          | p.21 |
| 福名理穂 (ばぶりか) 劇作ワークショップ / 山本卓卓 (範宙遊泳) ワークショップ  | p.22 |
| 原発事故による旧避難区域内の文化財巡りツアー 「原発被災地歴史探検」 / ロックコツアー | p.23 |
| 酒と話 「どんちゃん港」 / フェスティバル・フードマーケット              | p.24 |
| スケジュール                                       | p.25 |
| 地域コーディネーター                                   | p.26 |
| 公式グッズ  | p.28 |
| 開催概要   | p.30 |
| 協賛・協力  | p.31 |
| ビジュアル・コンセプト                                  | p.32 |

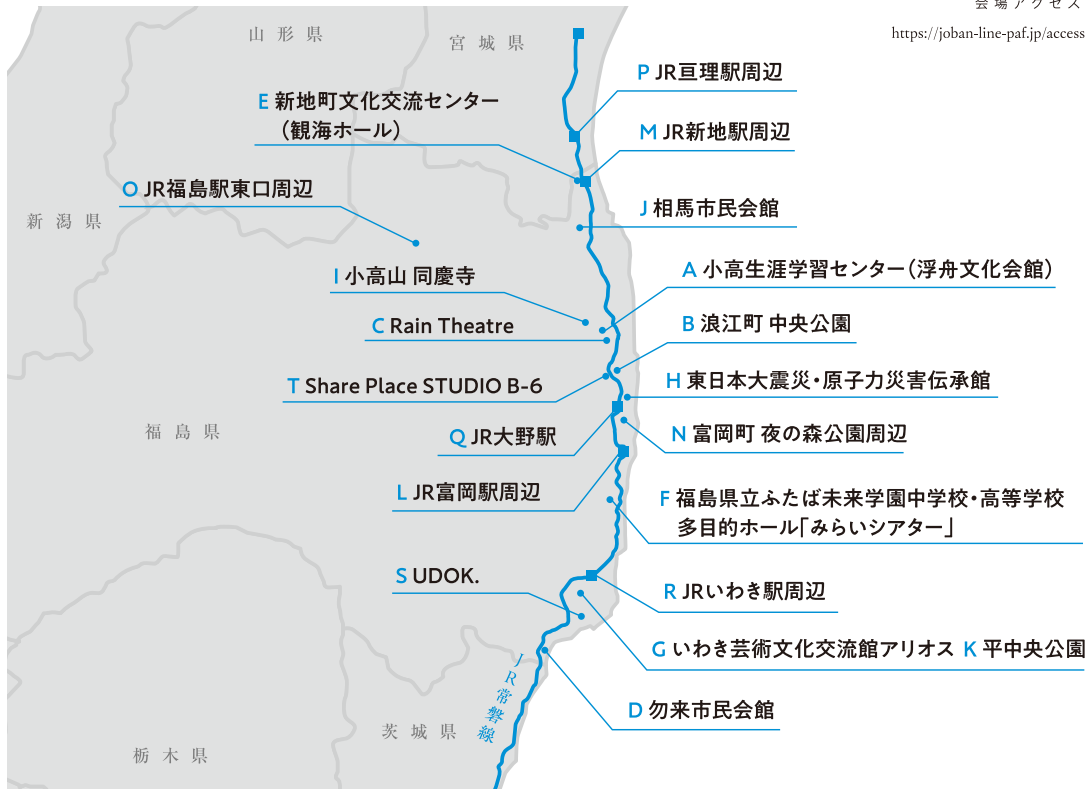
# 会場MAP

※プログラムの会場情報は変更の可能性があります。  
最新情報は芸術祭公式サイト・SNSをご覧ください。



会場アクセス

<https://joban-line-paf.jp/access>



## A 小高生涯学習センター(浮舟文化会館)

KEYNOTE SPEECH

📍 福島県南相馬市小高区本町 2-89-1

🚶 JR小高駅 徒歩8分

P 文化会館駐車場 90台

## C Rain Theatre

JR 常磐線 上り列車-マスク-

阿房列車 思い出せない夢のいくつか

📍 福島県南相馬市小高区東町1-10-5

🚶 JR小高駅 徒歩3分

## E 新地町文化交流センター(観海ホール)

ザ・レディオ・ミルキー・ウェイ 空に葉の花、地に鉾

📍 福島県相馬郡新地町駅前1-3

🚶 JR新地駅 徒歩1分

P 交流センター駐車場 23台、駅前有料駐車場 187台

## B 浪江町 中央公園

クロージングイベント

📍 福島県双葉郡浪江町権現堂北深町41-2

## D 勿来市市民会館

銀河鉄道の夜

📍 福島県いわき市錦町上川田21

🚶 JR植田駅 徒歩22分

※公共交通機関でお越しください。当日会場の駐車場はご利用いただけません。

## F 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 多目的ホール「みらいシアター」

もしイタ〜もし高校野球の女子マネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら

📍 福島県双葉郡広野町中央台1-6-3

🚶 JR広野駅 徒歩15分

P 駐車場あり ※当日は各駐車場看板を設置しています。



## G いわき芸術文化交流館アリオス

ジンコちゃんの世界 福名理穂(はぶりか)創作ワークショップ

📍 福島県いわき市平字三崎1-6

🚶 JRいわき駅南口 徒歩15分

※駐車場情報はアリオスHPをご確認ください

## I 小高山 同慶寺

日没を祭れ 2023 第二日「日没よ、鎮まれ。」

📍 福島県南相馬市小高区小高字上広畑246

🚶 JR小高駅 徒歩24分

## K 平中央公園(いわき芸術文化交流館アリオス前)

窓の外の結婚式

📍 福島県いわき市平三崎1

🚶 JRいわき駅南口 徒歩15分

※駐車場情報はアリオスHPをご確認ください

## M JR新地駅周辺

古川日出男×後藤正文「二つの駅舎、ボイス・オン・ボイス」

フェスティバル・フードマーケット

📍 会場は公式サイトにてご確認ください。

🚶 駅から徒歩圏内

## O JR福島駅東口周辺

和合亮一×田島貴男(Original Love)「浜通りと中通りの境」

📍 会場は公式サイトにてご確認ください。

🚶 駅から徒歩圏内

## Q JR大野駅

原発被災地歴史探検

📍 福島県双葉郡大熊町下野上大野

🚶 駅から徒歩圏内

## S UDOK.

酒と話「どんちゃん港」<小名浜編>

📍 福島県いわき市小名浜本町 29-2

🚶 JR泉駅より「イオンモールいわき小名浜」行き  
シャトルバス下車、徒歩5分

## H 東日本大震災・原子力災害伝承館

日没を祭れ 2023 第一日「日没、新しい夜明けに」

📍 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39

🚶 JR双葉駅 徒歩24分

P 伝承館駐車場 111台

## J 相馬市民会館

山本卓卓(範宙遊泳)ワークショップ

山本卓卓ソロ「キャメルと塩犬」

📍 福島県相馬市中村北町51-1

🚶 JR相馬駅 徒歩12分

※公共交通機関でお越しください。当日会場の駐車場はご利用いただけません。

## L JR富岡駅周辺

古川日出男×後藤正文「二つの駅舎、ボイス・オン・ボイス」

📍 会場は公式サイトにてご確認ください。

🚶 駅から徒歩圏内

## N 富岡町 夜の森公園周辺

柳美里×尾崎世界観「JR常磐線夜ノ森駅」

📍 会場は公式サイトにてご確認ください。

🚶 駅から徒歩圏内

## P JR亶理駅周辺

佐藤厚志×Miya「荒地の家族」

📍 会場は公式サイトにてご確認ください。

🚶 駅から徒歩圏内

## R JRいわき駅

ロッククツアー

📍 福島県いわき市平田町

🚶 駅から徒歩圏内

## T Share Place STUDIO B-6

酒と話「どんちゃん港」<浪江編>

📍 福島県双葉郡浪江町大字川添字佐野 51-4

🚶 JR浪江駅 徒歩4分



オープニング／クロージングイベント

## KEYNOTE SPEECH

📅 7月31日(月) 13:00~18:00 ※予定  
※当日のタイムテーブルは公式サイトをご確認ください。

📍 小高生涯学習センター(浮舟文化会館) ホール  
📍 福島県南相馬市小高区本町2-89-1



¥ 入場無料(申込不要・定員あり)

このフェスティバルで結ばれた人々のトークと、土地に根付いた伝統芸能や文化から、一つの「線」が湧き起こる。

登壇者：小松理虔、相馬行胤、平田オリザ、古川日出男、柳美里、和合亮一  
出演：磐城じゃんがら遊撃隊、富岡表現塾、他

オープニング／クロージングイベント

## クロージングイベント

📅 8月13日(日) 14:00~20:00 ※予定  
※当日のタイムテーブルは公式サイトをご確認ください。

📍 浪江町 中央公園  
📍 福島県双葉郡浪江町権現堂北深町41-2



¥ 入場無料(申込不要)  
※雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

常磐線舞台芸術祭が手繰り寄せ、つないだ人々と共に過ごすフィナーレ。それぞれが持つ線をつなぎ、輪を描くようにフォークダンスを踊って芸術祭を締めくくる。各地域のフードやお土産が楽しめるマーケットも出店。

演劇 青春五月党

# JR常磐線上り列車 -マスク-

「マスク」の舞台となるのは、JR常磐線の車内。  
登場人物は、異なる時を生きる高校生たちである。  
2020年5月15日、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除された翌日、感染症対策のためにマスクを着用して登校する高校生たち。  
2011年5月14日、放射線防護のためにマスクを着用し、避難先からサテライト校に通う高校生たち。  
2011年3月10日、マスクを着用せずに下校する高校生たち。  
出来事は過去に編入される際に正負や善悪に振り分けられがちだが、過去の今を生きる人々もまた、現在の今を生きる私たちと同様に、これから何が起こるか全く知らされないまま未来を眼差していたのである。彼らと私たちは、同じ時に揺られて、同じ方向に進んでいる。  
『常磐線の上り列車 -マスク-』で描く時は、現在する過去である。

作・演出：柳 美里

出演：秋元菜々美、大内彩加、尾崎宇内（青年団）、菊池佳南（うさぎストライプ・青年団）、木村巴秋（青年団）、久留飛雄己（青年座）、佐藤真喜子、関根颯姫（青春五月党）、名古屋 愛（青春五月党・青年団）、緑川史絵（青年団）、齋藤夏菜子、福島県立ふたば未来学園高等学校演劇部

共催：Rain Theatre（一般社団法人 OSPA）

企画・制作：青春五月党

照明プラン：海藤春樹

舞台美術：杉山 至

宣伝美術：鈴木成一デザイン室

制作：柳 丈陽、鄭 慶一、林 慶一、林田古都里

映像・音声協力：JR 東日本、JR 東日本企画、他

協力：ヒアリングにご協力頂いた2011年3月に相双地区の中学生・高校生だった皆様、教職員の皆様・福島県立ふたば未来学園高等学校OB・OGの皆様



撮影：新井卓



プレ公演

7月21日(金)~28日(金)

開演時間未定

8月4日(金)18:00 開演

8月5日(土)13:00/18:30 開演

8月6日(日)19:00 開演

※開場は開演の30分前



Rain Theatre

福島県南相馬市小高区東町 1-10-5



一般 4,000円 学生 3,000円

(整理番号付き自由席・税込)

※未就学児入場不可

青春五月党

青春五月党 せいしゅんごがつとう

柳美里が1987年に18歳で旗揚げた演劇ユニット。1993年『魚の祭』で岸田國士戯曲賞を最年少受賞。1994年『Green Bench』が戯曲として初めて第7回三島由紀夫賞の最終候補となる。1995年までの8年間で、柳美里の戯曲10作品を上演する。以降、小説に軸足を移していたが、2018年に南相馬市小高区の自宅裏倉庫で四半世紀の沈黙を破り、復活公演『静物画』『町の形見』を連続上演。



## 演劇 青年団 銀河鉄道の夜

「銀河ステーション―」

星祭りの夜、1人寂しく夜空を見上げるジョバンニの耳に突如響く車掌の声。

親友カンパネラと共に“本当の幸せ”を求めて様々な星座を旅し、2人の行き着く先は――。

本作は、宮沢賢治の名作『銀河鉄道の夜』を、フランスの子どもたちに届けるために平田オリザが戯曲化した、子ども向けの演劇作品である。

平田は、この舞台化に当たって、「友人の死を受け入れることで成長していく少年の物語」というシンプルな構成を取り、『銀河鉄道の夜』を力強く再生し、大好評を博した。

日本語版は、2011年春のリーディング公演、2012年春の初演後、東日本大震災の被災3県を含む、全国各地で上演を重ね、多くの子どもたちが劇場を訪れている。

📅 8月1日(火)14:00 開演

8月2日(水)17:00 開演

※開場は開演の30分前 ※上演時間:約60分

📍 なこそ 勿来市民会館

📍 福島県いわき市錦町上川田 21



¥ 一般 4,000円 学生 3,000円

(整理番号付き自由席・税込)

※未就学児入場不可

原作:宮沢賢治

作・演出:平田オリザ

出演:井上みなみ、永田莉子、福田倫子、知念史麻、高橋智子

企画・制作:青年団/有限会社アゴラ企画

美術:杉山至 舞台監督:中西隆雄

舞台監督補:原田香純 照明:井坂浩

音響:秋田雄治 映像:ワタナベカズキ

映像操作:島田曜蔵 衣裳:正金彩

衣裳製作:中原明子 制作:太田久美子



### 平田オリザ ひらた・おりざ

劇作家・演出家。芸術文化観光専門職大学学長。劇団青年団主宰。こまばアゴラ劇場、江原河畔劇場芸術総監督。1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞受賞。2006年モンブラン国際文化賞受賞。2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。2019年『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞受賞。著書『わかりあえないことから』『演劇入門』『下り坂をそろそろと下る』(以上、講談社現代新書)など。

青年団 →p.10 参照



宣伝美術：櫛田透(nix graphics)

朗読劇

## ザ・レディオ・ミルキー・ウェイ ラジオ朗読劇「銀河鉄道の夜」舞台版

銀河ラジオ(ザ・レディオ・ミルキー・ウェイ)の人気DJゴトウのもとに、ある夜ふしぎな投書が届けられた。ジョバンニという弟が行方不明なのだ、とその女性のボイスメールは訴える。はたしてジョバンニ少年はどこにいるのか？そしてジョバンニの親友・カムパネルラはどうなったのか？ 純粋な子どもたちの想いを追って、銀河ラジオの報道員(レポーター)たちの冒険が始まる。「宮沢賢治さん、賢治さん、これがラジオです。これが銀河のラジオです」——今年3月に、ふくしまFMとエフエム岩手の共同特別番組としてオンエアされたラジオ朗読劇が、舞台上の新たな作品に。音楽もその場で再現し、劇場に銀河宇宙への「窓」を開く。

8月1日(火)18:00 開演  
8月2日(水)13:00 開演

※開場は開演の30分前  
※上演時間：約80分

新地町文化交流センター(観海ホール)  
福島県相馬郡新地町駅前1-3



¥ 一般 4,000円 学生 3,000円  
(整理番号付き自由席・税込)

※未就学児入場不可

原作：宮沢賢治  
脚本・演出：古川日出男  
出演：古川日出男、管啓次郎、小島ケイタニーラブ、柴田元幸、北村 恵、後藤正文  
音楽：後藤正文、小島ケイタニーラブ  
映像：河合宏樹  
企画・制作：朗読劇「銀河鉄道の夜」制作チーム  
音響：川島寛人+RIME株式会社  
記録写真：朝岡英輔  
宣伝美術：櫛田透(nix graphics)  
広報：浦谷晃代 広報補佐：北村 恵  
制作：関戸詳子、浦谷晃代  
制作補佐：青木比登美、古川千枝

### 朗読劇「銀河鉄道の夜」 ろうどくげき・ざんがてつどうのよる

小説家・古川日出男のオリジナル脚本と朗読に、音楽家・小島ケイタニーラブの音楽と歌、詩人・管啓次郎の書き下ろしの詩、翻訳家・柴田元幸のバイリンガル朗読が加わって生まれた新しい「賢治」の世界。2011年の初演以来、全国20か所以上で公演を行う。映像作品「コロナ時代の銀河」(監督：河合宏樹)で宮沢賢治賞奨励賞を受賞。今作では常連4名に加え、俳優の北村 恵、ミュージシャンの後藤正文がゲスト参加。



「奇跡の高校演劇」福島の高校生とコラボ  
東日本大震災被災地応援のために作られた



撮影:西澤勝

演劇 青森中央高校演劇部 × 福島県の高校生たち

もしイタ～もし高校野球の女子マネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら

東日本大震災の避難所となった体育館などで、どこでも演じられるように創られたこの作品は、照明、音響、大道具、小道具を用いず、効果音や舞台装置も含めすべてを俳優が表現する。青森中央高校演劇部によって2011年9月から足かけ13年で全国の22都府県 50市町(+海外)で107ステージ上演。そのうちの気仙沼市、大船渡市、釜石市などでの19公演は被災地応援公演として行われ「第58回 全国高等学校演劇大会」(2012年)で最優秀賞を受賞。「フェスティバル/トーキョー14」(東京)、「フェスティバル・ボム」(ソウル)などに招待され、好評を得た。福島県と青森県の高校生が共に演じるこのプロジェクトは2011年当時の悲願であった。

📅 8月1日(火)17:00 開演

※開場は開演の30分前  
※上演時間:約60分

作・演出:畑澤聖悟

出演:青森県立青森中央高等学校演劇部、  
福島県の高校生たち

企画・制作:なべげんわーく合同会社

📍 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校  
📍 多目的ホール「みらいシアター」  
福島県双葉郡広野町中央台 1-6-3



¥ 無料(要予約・全席自由席)



あおもりけんりつ・あおもりちゅうおうこうとうがっこう・えんげきぶ

青森県立青森中央高等学校演劇部

全国高校演劇大会で『修学旅行』(2005年)、『河童』(2008年)、『もしイタ』(2012年)で最優秀賞を受賞。優秀賞も5回受賞(全国大会受賞数8は全国最多)。春フェス出場は5回。青森空襲を体験した方々からの取材や、手記などを元に部員自ら構成・演出した『7月28日を知っていますか?』を毎年7月28日(空襲の日)に上演し続けて9年目。2015年の映画『幕が上がる』にはラスボスのライバル演劇部として部員全員で出演。

畑澤聖悟 →p.09 参照



撮影:西澤勝

演劇 青森中央高校演劇部

## ジンコちゃんの世界

ガラス瓶の中のたった一個の休眠卵から始まったミジンコの王国の10日間とそれを見つめる少女。青森県立青森中央高等学校演劇部によって2016年初演され、「第49回東北地区高等学校演劇発表会」(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール)で優秀賞を受賞。「第11回春季全国高等学校演劇研究大会」(大垣市民会館)で上演された。また、WEB開催となった2020年のこうち総文「第66回全国高等学校演劇大会」では、中部日本ブロック代表の愛知県立津島北高等学校が映像参加で本作を上演した。

📅 8月2日(水)17:00 開演

※開場は開演の30分前  
※上演時間:約60分

作・演出:畑澤聖悟

出演:青森県立青森中央高等学校演劇部

企画・制作:なべげんわーく合同会社

📍 いわき芸術文化交流館  
アリオス 小劇場  
福島県いわき市平字三崎 1-6



¥ 無料(要予約・全席自由席)



畑澤聖悟 はたさわ・せいご

劇団「渡辺源四郎商店」店主。2005年『俺の屍を越えていけ』で日本劇作家大会短編戯曲コンクール最優秀賞受賞。劇団民藝『カミサマの恋』、こまつ座『母と暮せば』、ホリプロ『hana-1970、コザが燃えた日-』など書き下ろし多数。2017年『親の顔が見たい』がFOX コリアにより映画化。ラジオドラマの脚本で文化庁芸術祭大賞、ギャラクシー大賞、日本民間放送連盟賞などを受賞。現役の公立高校教諭で演劇部顧問。

平田オリザ初期の傑作短編戯曲、福島で復活（阿房列車）



撮影：三浦雨林

同じ舞台セットを使用して2作品を上演

青年団  
SEINENDAN

青年団 せいねんだん

1982年結成。こまばアゴラ劇場を拠点に、平田が提唱した「現代口語演劇理論」を通じて新しい演劇様式を追求し、90年代以降の演劇界に強い影響を与え続けている。劇団内で独自の企画を行う不定形のユニット「青年団リンク」は若手アーティスト育成の場として、才気あるアーティストを多く輩出。2020年より兵庫県豊岡市の新拠点「江原河畔劇場」からも作品の創作・発信を行っている。



星の数ほど生まれる思いは、衝突、爆発、死を繰り返す  
これは大人のための『銀河鉄道の夜』（思い出せない夢のいくつか）

演劇

青年団

## 阿房列車

1991年、平田オリザが他劇団に書き下ろした最初の作品。内田百閒の名作『阿房列車』をベースに、中年の夫妻のあてどない旅の風景を描く初期平田オリザの傑作短編戯曲。目的もなく旅に出た二人は、列車の中で不思議な若い女と出会う。何か事件が起こるわけでもない日常の延長のような列車の旅のなか、諸相の向こうから様々な風景が浮かび上がってくる。

📅 8月10日(木)15:00 開演

8月11日(金)19:00 開演

8月12日(土)15:00 開演

※開場は開演の30分前 ※上演時間：約60分

📍 Rain Theatre

📍 福島県南相馬市小高区東町 1-10-5



¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円

(整理番号付き自由席・税込)

※未就学児入場不可

作・演出：平田オリザ

出演：中藤 奨、たむらみずほ、田崎小春

企画・制作：青年団／有限会社アゴラ企画

美術：杉山 至

舞台監督：中西隆雄

舞台監督補：原田香純

照明：西本 彩

衣裳：中原明子

制作：太田久美子

演劇

青年団

## 思い出せない夢のいくつか

1994年に青年団プロデュース公演として渋谷のシードホール、横浜の相鉄本多劇場、伊丹の AI・HALL の3都市ツアーを敢行した作品。当時、第七病棟の緑魔子を客演に迎え、「唐十郎さんや石橋蓮司さんが少女のイメージで捉える緑魔子さんとは違う現在の彼女」を登場させて話題となった。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』や『青森挽歌』、内田百閒の『阿房列車』、寺山修司の『コメット・イケヤ』などを題材にとり、3人の男女の複雑に絡み合う想いを、行く先が定かでない曲がりくねった線路の上を走る列車に乗せて描く。

📅 8月10日(木)19:00 開演

8月11日(金)15:00 開演

8月12日(土)19:00 開演

※開場は開演の30分前 ※上演時間：約60分

📍 Rain Theatre

📍 福島県南相馬市小高区東町 1-10-5



¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円

(整理番号付き自由席・税込)

※未就学児入場不可

作・演出：平田オリザ

出演：兵藤 公美、大竹 直、南風盛もえ

企画・制作：青年団／有限会社アゴラ企画

美術：杉山 至

舞台監督：中西隆雄

舞台監督補：原田香純

照明：西本 彩

衣裳：正金 彩

制作：太田久美子



合唱

## 日没を祭れ 2023 第一日 『日没、新しい夜明けに』

「サムライ・リーディング」と海外で称された和合亮一のリーディングパフォーマンスと、海外でのめざましい活躍で知られており、あつたかふくしま観光交流大使も務めている千葉清藍の書と、マルチ・メディア・グループ「ダムタイプ」の創成期のメンバーであり、作曲家・ディレクター・DJとして幅広く活動する山中透の三者の奇蹟のインプロビゼーションのライブが開催。2部では、1部で記された千葉の書を中央に置きながら、福島を代表する合唱団と被災地に思いを届けるために志を抱いて全国から集った有志の合唱人が、東日本大震災に捧げた和合亮一作詞・信長貴富作曲の新曲「光の走者よ」と、震災からずっと歌い継がれている曲「夜明けから日暮れまで」、そしてこの小高・浪江の土地から生まれた名曲「群青」「大地讃頌」の数々を歌い上げる。

📅 8月5日(土)17:00 開場

※準備整い次第開演

📍 東日本大震災・原子力災害伝承館  
📍 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39



¥ 無料(要予約)

企画・構成・監修:和合亮一 演出・制作:佐藤典之

1部 | 出演:千葉清藍、山中透、和合亮一

2部 | 出演:福島県合唱連盟いわき支部、浪江混声合唱団、ゆめはっと合唱団、  
全国公募・有志参加者

朗読:和合亮一、小田美樹、清野和也、遠藤航、齋藤瑠偉、大橋奈央、  
熊谷コウ 指揮:西岡茂樹、信長貴富

企画・制作:「日没を祭れ 2023」実行委員会

舞台監督・企画:佐久間美紀

照明・企画:佐藤康孝 音響:本儀拓

監修(助)・企画:清野和也 進行・企画:和合敦子

伝承館企画担当幹事:葛西優香

幹事・アドバイザー:原田洋二、横山芳幸、橋本靖治、金成聡司、西岡茂樹、  
秋山浩太、横山俊顕、田中徳雲、岩本裕貴、平川綾真智、ikoma



### 和合亮一 わごう・りょういち

1968年福島県生まれ。詩人。中原中也賞、晩翠賞、萩原朔太郎賞など受賞。2011年、東日本大震災直後からTwitterで連作『詩の隙』を発表し、同年5月、世界三大コンサートホールのオランダのコンサートへボウに招致され、朗読にて福島の想いを発信した。2017年7月、詩集『詩の隙』(徳間書店)がフランスにて翻訳・出版、第一回ニュク・レビュー・ポエトリー賞を受賞。フランスでの詩集賞の受賞は日本文壇史上初となり、国内外で大きな話題を集めた。今春、新しい英訳詩集『Since Fukushima』が刊行された。



能楽

## 日没を祭れ 2023 第二日 『日没よ、鎮まれ。』

1部は詩人和合亮一の作・演出による創作能の試みを、福島を代表する若手演劇人の力を結集して上演する。2部は重要無形文化財「能楽」保持者の津村禮次郎氏による極められた創作能を上演。江戸時代以降の相馬氏の菩提寺である、由緒ある美しい境内で行われる、鎮魂と再生への祈りを込めた、言葉と舞の清新なる夏の夜の特別公演。

📅 8月11日(金)18:00 開演

※開場は開演の30分前

📍 小高山 同慶寺

📍 福島県南相馬市小高区小高字上広畑 246



¥ 無料(要予約・全席自由席)

1部 | 作・演出: 和合亮一

出演: 清野和也、他

2部 | 作・演出・出演: 津村禮次郎

企画・制作: 「日没を祭れ 2023」実行委員会

企画: 和合亮一

舞台監督: 佐久間美紀

企画・照明: 佐藤康孝

制作: 佐藤典之



### 津村禮次郎 つむら・れいじろう

1942年福岡県北九州市生まれ。能楽師・シテ方観世流。緑泉会会主。重要無形文化財(能楽総合)指定保持者。大学在学中に一橋観世会に所属、女流能の草分け津村紀三子の指導を受け能楽の道を志し、その後先代観世喜之師に師事する。古典能のみならず、創作能、新演出、ダンス界の森山開次、酒井はな、オペラ界の福井敬などと多数共演。2023年古典楽器を中心に「TEAM NOSARU」を結成し3年ぶりにヨーロッパツアーを行う。2011年大震災以来、福島・三陸地方との交流事業を継続し続けている。

和合亮一 →p.12 参照



イラスト:山下昇平

演劇

## 渡辺源四郎商店

まさかり

# 空に菜の花、地に鉞

東北地方北部。大きな鉞(まさかり)の形をした半島の付け根にある海沿いの小さな村に一人の青年がやって来る。美しい村の風景に心奪われ、村の娘に恋をする青年。しかし、青年には使命が。独裁者の支配する某国からのミサイルをこの村の原子力施設に誘導するのだ。原子燃料サイクル施設、使用済燃料中間貯蔵施設、原子力発電所、米軍基地を擁する青森県をモデルに描くSF活劇。

📅 8月5日(土)17:00 開演

8月6日(日)13:00 開演

※開場は開演の30分前

※上演時間:約85分

📍 新地町文化交流センター  
(観海ホール)

福島県相馬郡新地町駅前 1-3



¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円  
(整理番号付き全席自由・税込)

※未就学児入場不可

作・演出:畑澤聖悟

出演:渡辺源四郎商店

企画・制作:なべげんわーく合同会社

舞台監督:中西隆雄

舞台美術:山下昇平

音響:藤平美保子

照明:中島俊嗣

プロデュース:佐藤 誠

ドラマターグ:工藤千夏

源

## 渡辺源四郎商店

わたなべげんしろうしょうてん

2005年旗揚げ。青森市のセルフビルド劇場「渡辺源四郎商店しんまち本店」を本拠地に精力的な演劇活動を行っている。日本全国を視野に入れた公演活動と地元密着のワークショップが活動の両輪です。『ショウジさんの息子』で CoRich 舞台芸術まつり 2008グランプリを受賞。「フェスティバル／トーキョー14」に「翔べ!原子カロボむつ〜愛・戦士編〜」で参加。



演劇 山本卓卓ソロ

## キャメルと塩犬

「私は演劇のすべてを経験し、演劇そのものになりたいのだ。そのために、やっぱり一回ぜんぶ自分でやろうと思った」

古典落語の『らくだ』をモチーフに現代の上下関係(上司と部下)へと置き換える。上から下への力の構造を暴き、物語の途中で上下を反転させることで、人間の持つ愚かな暴力の連鎖と現代社会の不確かさを描く。

かといってタッチはあくまで軽快なブラックコメディを目指す。なお、落語のように複数役を山本が一人で演じる。

📅 8月11日(金)17:00

※開場は開演の30分前 ※上演時間:約80分

📍 相馬市民会館 多目的ホール  
福島県相馬市中村北町 51-1



¥ 一般 4,000円 学生 3,000円  
(整理番号付き全席自由・税込)

※未就学児入場不可

作・演出・音響・照明・映像・出演・企画:山本卓卓

原案:古典落語「らくだ」

協力:有楽町アートアーバニズムプログラムYAU、  
一般社団法人ベンチ、森下スタジオ、合同会社  
範宙遊泳

助成:公益財団法人セゾン文化財団

企画制作:山本卓卓ソロ

制作:大蔵麻月

※一部暴力的な表現や発言があります。  
あらかじめご了承のうえ、ご観劇ください。



©雨宮透貴

### 山本卓卓 やまもと・すぐる

劇作家・演出家・俳優。範宙遊泳代表。加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築。子どもと一緒に楽しめる「シリーズ おとなも子どもも」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米での公演や国際共同制作、戯曲提供も多数。『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國土戯曲賞を受賞。公益財団法人セゾン文化財団フェロー。





2022年 世田谷シルク「春夏秋冬」©大倉英揮

リーディング

堀川 炎

## 窓の外の結婚式

ウェディングパークの隣に住む再婚夫婦は、窓の外の結婚式をながめている。

女はふと、自分が実家の台所に立っているような錯覚に襲われる。そして母親の郷土料理の作り方を教える声や、亡くなった夫のプロポーズを思い出す。時間は逆戻りし、元夫や父親は姿を現し、場所は当時の結婚式場に変わる。

今作は、津波によって1人生き残った、とある女性を描いている。現在と過去の時間軸を行き来し、隣にいる夫とは別の男性を思い出しながら言いようのない悲しみを背負う彼女。それは震災を風化させてはいけぬ事実に触れると同時に、大きな被害にあわなかった他の人々へも、過去の悲しみを乗り越えていく強さときっかけを予感させてくれる。

📅 8月12日(土)18:30 開演

※開場は開演の30分前  
※上演時間:約50分

📍 平中央公園  
K (いわき芸術文化交流館アリオス前)  
福島県いわき市平三崎 1



¥ 無料(要予約)

※雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

原作:柳 美里

演出:堀川 炎

出演:近藤 強、鄭 亜美、石松 太一、藤瀬のりこ、  
倉島 聡(以上、青年団)

企画制作:青年団/有限会社アゴラ企画

日本博2.0「現代舞台芸術の魅力発信——

芸術と地域との連携強化に向けて」関連企画

美術:鈴木健介

衣裳:綾

演出助手:南波 圭



堀川 炎 ほりかわ・ほのお

脚本家・演出家・振付家。2008年より世田谷シルクを主宰。内容を「くすっと笑えるアート」と称し、日常のちょっとしただけおかしな状況を描く。近年はビジュアルアート(視覚芸術)に間口を広げ、会話にこだわらない表現で創作している。オペラの演出助手も行う傍ら、劇団としてはインドやスウェーデンでの共同制作や、「瀬戸内国際芸術祭」「奥能登国際芸術祭」に参加。

# Voice on Voice

文・古川日出男

声は何にも似ていない。  
鉄管にもケーキにも似ていない。  
見えないし触れない。  
光らないし臭わない。

だけど声は、人と人をつないで、運ぶ。  
人と人を集めて、散らせる。  
まるで鉄道の駅みたいに。

だから声に声を重ねる。あの駅で。  
声と声を触れさせる。あの駅で。この駅で。

「Voice on Voice」は常磐線沿線の駅舎周辺で  
アーティスト同士がコラボレーションする企画です。  
常磐線舞台芸術祭でのみ実現しうる共演をお楽しみください。

※会場は屋外の可能性もあります。雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。  
※会場は公式サイトにてご確認ください。



© 朝岡英輔



Voice on Voice

古川日出男 × 後藤正文

## 二つの駅舎、ボイス・オン・ボイス

📅 8月3日(木)18:30 開演  
8月4日(金)18:30 開演

※開場は開演の60分前



JR 富岡駅周辺 (8月3日)

JR 新地駅周辺 (8月4日)

※会場は公式サイトにてご確認ください。

¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円  
(整理番号付き・税込)

※会場は屋外となります。

雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

作家とミュージシャンが、音楽に声を重ねて言葉に声を重ねる。どうして？ あの日、流出したり壊されたりした駅の、消えた「声」に触れるために。そして未来の「声」に交わるために。二つの駅の、これがボイス・オン・ボイス。

出演：古川日出男、後藤正文

音響(PA)：川島寛人+RIME株式会社

### 古川日出男 ふるかわ・ひでお

1966年福島県生まれ。1998年のデビュー以来、掌篇から巨篇まで様々なスケールの小説を書き続けながら戯曲や評論、ノンフィクション作品も発表。また朗読を軸に他分野の表現者とのコラボレーションによる創作の機会も多く、執筆にとどまらない縦横無尽な文学表現に取り組む。

<https://fukurawahideo.com>

### 後藤正文 ごとう・まさふみ

1976年静岡県生まれ。ASIAN KUNG-FU GENERATIONのボーカル&ギター。新しい時代とこれからの社会を考える新聞「THE FUTURE TIMES」の編集長を務める。インディーズレーベル「only in dreams」主宰。

<https://gotch.info/>





©大戸清孝

Voice on Voice

柳美里 × 尾崎世界観

## JR 常磐線夜ノ森駅

📅 8月7日(月)17:00 開演

※開場は開演の60分前



富岡町 夜の森公園周辺

※会場は公式サイトにてご確認ください。

¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円  
(整理番号付き・税込)

※会場は屋外となります。

雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

二つの「物語」が、「音楽」が、そしてこの地を訪れる人々の「呼吸」が、暮色蒼然と迫る夜ノ森の空に昇り、混じり合い、拡散する。

出演：柳美里、尾崎世界観

### 柳美里 ゆう・みり

1968年、茨城県土浦市生まれ。高校中退後、東由多加率いるミュージカル劇団「東京キッドブラザース」に入団。俳優を経て、1987年に演劇ユニット「青春五月党」を結成。1993年『魚の祭』で岸田國士戯曲賞を最年少受賞。1997年『家族シネマ』で芥川賞を受賞。2015年4月、鎌倉から南相馬市原町区へ転居。2018年、福島県南相馬市小高区の自宅を改装し、ブックカフェ「フルハウス」をオープン。同年「青春五月党」を復活させる。2020年『Tokyo Ueno Station (JR 上野駅公園口)』で全米図書賞(翻訳文学部門)を受賞。

### 尾崎世界観 おざき・せいかかん

1984年東京都生まれ。2001年結成のロックバンド「クリープハイブ」のボーカル・ギター。2012年、アルバム『死ぬまで一生愛されてると思ってたよ』でメジャーデビュー。2014年に初の日本武道館2Days公演を開催、2018年にも日本武道館公演を成功させる。2023年3月には、幕張メッセ・大阪城ホールというキャリア史上最大規模の会場にて、各2Daysのアリーナツアーを開催。2016年に初小説『祐介』を上梓。その他の著書に『苦汁100%』『苦汁200%』『泣きたくなるほど嬉しい日々』。2021年1月に単行本が発売された中篇小説『母影』は第164回芥川賞候補作に選出された。



Voice on Voice

和合亮一 × 田島貴男(Original Love)

## 浜通りと中通りの境

📅 8月8日(火)18:30 開演

※開場は開演の60分前

📍 JR 福島駅東口周辺



※会場は公式サイトにてご確認ください。

¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円  
(整理番号付き・税込)

※会場は屋外となります。

雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

詩と歌が、8月の福島の街の境目を駆け抜ける。音楽は、言葉は、叫びとささやきは、どこから、どこへ。詩人・和合亮一と「Original Love」の田島貴男。初めてセッションする2人の心と声が出会う、真夏の祭りの奇跡を、共に。

出演：和合亮一、田島貴男(Original Love)

### 和合亮一 わごう・りょういち

1968年福島県生まれ。詩人。中原中也賞、晩翠賞、萩原朔太郎賞など受賞。2011年、東日本大震災直後からTwitterで連作『詩の磔』を発表し、同年5月、世界三大コンサートホールのオランダのコンセルトヘボウに招致され、朗読にて福島の想いを発信した。2017年7月、詩集『詩の磔』(徳間書店)がフランスにて翻訳・出版、第一回ニュク・レビュー・ポエトリー賞を受賞。フランスでの詩集賞の受賞は日本文壇史上初となり、国内外で大きな話題を集めた。今春、新しい英訳詩集『Since Fukushima』が刊行された。

### 田島貴男 (Original Love) たじま・たかお

1987年からOriginal Loveとして活躍。1994年リリースのアルバム『風の歌を聴け』はオリコン初登場1位。昨年の20枚目のアルバム『MUSIC, DANCE & LOVE』はCDショップ大賞にノミネートされ、大型フェスにも出演するなど現在も精力的に活動中。



© 新潮社



Voice on Voice

佐藤厚志 × Miya

## 荒地の家族

📅 8月9日(水)18:00

※開場は開演の60分前

📍 JR 亘理駅周辺

🅑 ※会場は公式サイトにてご確認ください。

¥ 一般 4,000 円 学生 3,000 円  
(整理番号付き・税込)

※会場は屋外となります。

雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

あの災厄から10年余り。止むことのない渴きと痛み。  
元の生活に戻りたいと人が言う時の「元」とはいつの  
時点か――。

出演：佐藤厚志、Miya

### 佐藤厚志 さとう・あつし

1982年宮城県仙台市生まれ。東北学院大学文学部英文学科卒業。仙台市在住、丸善仙台アエル店勤務。2017年第49回新潮新人賞を『蛇沼』で受賞。2020年第3回仙台短編文学賞大賞を『境界の円居(まどい)』で受賞。2021年『象の皮膚』が第34回三島由紀夫賞候補。2023年『荒地の家族』で第168回芥川龍之介賞を受賞。現在、「河北新報」日曜版にて『常盤団地第三号棟』を連載中。

### Miya みや

宝玉宮雪 音楽家。フルートや日本の笛を使った演奏、モジュラーなどの電子楽器、それらを組み合わせた演奏パフォーマンスを展開。音楽の伝統と現代的な要素を組み合わせ、ジャズ、即興、ノイズ、アートとのコラボレーションなど、ジャンルを超えたユニークで普遍的な音楽スタイルで、幅広い活動を行う。山下洋輔をプロデューサーに迎えた『Miya's Book』などこれまでに4枚のアルバムをリリース。2018年ごろより福島県南相馬市に伝わる民俗神楽の復興を手がけ、神楽師・寶玉流一増派・宝玉宮雪としても活動している。

国内で活躍する演出家を招き開催する演劇ワークショップ。

第一線で活躍するアーティストの創作を体験し、アーティストの「視点」を体感することができます。



撮影:矢野瑛彦



©雨宮透貴

ワークショップ

## 福名理穂(ばぷりか) 劇作ワークショップ

ファシリテーター:福名理穂 アシスタント:岡本 唯  
企画制作:ばぷりか  
制作:込江 芳、林 紗弥、半澤裕彦

📅 8月2日(水)18:30~21:30

8月3日(木)18:30~21:30

※受付開始は18:00

📍 いわき芸術文化交流館アリオス  
G 大リハーサル室  
福島県いわき市平字三崎 1-6



¥ 1,500円(要申込)

ワークショップ

## 山本卓卓(範宙遊泳) ワークショップ

講師:山本卓卓  
助成:公益財団法人セゾン文化財団  
企画制作:合同会社範宙遊泳  
プロデューサー:坂本もも  
制作:大蔵麻月

📅 8月10日(木)14:00~19:00

※受付開始は13:30

📍 相馬市民会館 多目的ホール  
J 福島県相馬市中村北町 51-1



¥ 1,500円(要申込)

## 福名理穂 ふくな・りほ

1991年生まれ。広島県出身、東京都在住。20歳まで広島で過ごし、中学時代から「役者と触れ合う仕事がしたい」という漠然とした夢を抱えて上京。19歳の頃ノゾエ征爾氏(はえぎわ)の『ガラパコスパコス~HIROSHIMA ver.~』(演劇引力広島第9回プロデュース公演/2012)に演出部として参加し、演劇の表現の豊かさに感銘を受ける。2014年7月ばぷりかを旗揚げ。以降、ばぷりか全作品の作・演出を務める。2021年に上演した第5回公演『柔らかに揺れる』で、第66回岸田國士戯曲賞受賞。  
<https://www.paprika-play.com/>

## 山本卓卓 やまもと・すぐる

劇作家・演出家・俳優。範宙遊泳代表。加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築。子どもと一緒に楽しめる「シリーズ おとなもこどもも」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米での公演や国際共同制作、戯曲提供も多数『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國士戯曲賞を受賞。公益財団法人セゾン文化財団フェロー。



ツアー

## 原発事故による 旧避難区域内の文化財巡りツアー 「原発被災地歴史探検」

原発事故による旧避難指示区域には様々な文化財が存在するが、それらを知る機会はありません。元福島県立博物館学芸員であり、現在南相馬市文化財課に勤める森 幸彦が案内役となり、様々な「歴史」にスポットを当てながらツアーを行う。

案内人：森 幸彦

📅 8月4日(金)9:00~17:00

📍 JR 大野駅 (集合場所)  
📍 福島県双葉郡大熊町下野上大野  
※解散場所：JR原ノ町駅



¥ 一般 4,000円 学生 3,000円(税込)

※当日要身分証明書 ※妊婦および15歳未満参加不可  
※未成年者の参加は保護者の同意を確認します。



ツアー

## ロッコクツアー

福島県浜通りを南北に走る国道6号線、通称ロッコク。国道沿いに点在する震災遺構、産業遺構をめぐりながら、震災や近代化、工業化が生み出した「断層線」をたどるツアー。案内人は、著書『新復興論』の中で独自の「ロッコクツアー」を提唱する小松理虔。

案内人：小松理虔

📅 8月6日(日)10:00~18:00  
8月9日(水)10:00~18:00

📍 JR いわき駅 (集合場所)  
📍 福島県いわき市平田町



¥ 無料(要申込)

## 森 幸彦 もり・ゆきひこ

南相馬市出身。元福島県立博物館学芸員。大熊町教育委員会、福島県文化財センターなどに勤務するかたわら、南相馬市鹿島区の山田神社などの宮司も務める。現在は津波で流出した神社の記録作成などにも携わる。

## 小松理虔 こまつ・りけん


1979年いわき市小名浜生まれ。地域活動家。いわき市を拠点に、食、観光、文化芸術などの領域で、さまざまな地域活動と執筆活動を行う。震災復興に関する考えをまとめた『新復興論』(ゲンロン)で第18回大佛次郎論壇賞を受賞。また近年では、編集者として関わったいわきの地域包括ケア「igoku」ではグッドデザイン金賞を受賞するなど地域の福祉などにも活動を広げている。


食

## 酒と話 「どんちゃん港」

いわき市小名浜在住の地域活動家、小松理虔がプロデュースする食と対話の企画。小名浜と浪江。福島県浜通りにある二つの港町を舞台に、地元のうまいものを囲みながら、地元の人もよそものも交じり合い、地域について、文化について、震災や復興についてざっくばらんに語るうじゃないかという企画。なにはともあれまずは宴。酒と食、対話のあるところに「共事」の回路が立ち上がる。

企画：小松理虔

 小名浜編 8月5日(土)15:30~18:30


 浪江編 8月12日(土)15:30~18:30

 小名浜編  


UDOK.

福島県いわき市小名浜本町 29-2



 浪江編

Share Place STUDIO B-6

福島県双葉郡浪江町大字川添字佐野 51-4



 2,500円(要申込)

※食事代込み/お酒の持ち込み可

食

## フェスティバル・ フードマーケット


福島県内の常磐線沿線を中心に、地域の名産品やおいしいものが大集合。

地元の方が「縁日の屋台といえば、これだよな」と思う名物が集まる、フードマーケット。

 8月4日(金)~6日(日)

※時間は公式サイトをご確認ください。

 JR 新地駅周辺

 ※会場は追ってお知らせします。

 入場無料、申込不要

## Ticket チケット情報

チケット料金(1公演)

一般 4,000円 学生 3,000円

※学生は当日要証明書 ※一部プログラムは料金が異なります

プログラムに関するお問い合わせ

常磐線舞台芸術祭実行委員会事務局

050-1750-3402 (平日 10:00~17:00)

info@joban-line-paf.jp

チケット取り扱い

常磐線舞台芸術祭

公式サイトチケットページ

<https://joban-line-paf.jp/ticket/>



チケット購入についてのご不明点は下記ページをご確認ください  
<https://t.pia.jp/help/>



# Schedule スケジュール

7/21 **金** ~ 28 **金**

**プレ公演** JR常磐線上り列車 - マスク

|               |                                    |                 |                                 |
|---------------|------------------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 7/31 <b>月</b> | KEYNOTE SPEECH                     |                 |                                 |
| 8/ 1 <b>火</b> | 銀河鉄道の夜                             | ザ・レディオ・ミルキー・ウェイ | もしイタ                            |
| 2 <b>水</b>    |                                    |                 | ジンコちゃんの世界                       |
| 3 <b>木</b>    | Voice on Voice / 古川日出男 × 後藤正文 @ 富岡 |                 | 福名理穂 (ばぶりか) 劇作ワークショップ           |
| 4 <b>金</b>    | Voice on Voice / 古川日出男 × 後藤正文 @ 新地 |                 | 原発被災地歴史探検                       |
| 5 <b>土</b>    | JR常磐線上り列車 - マスク                    | 空に菜の花、地に鉞       | 日没を祭れ 2023 第一日<br>小名浜編 「どんちゃん港」 |
| 6 <b>日</b>    |                                    |                 | ロックツアー                          |
| 7 <b>月</b>    | Voice on Voice / 柳 美里 × 尾崎世界観      |                 |                                 |
| 8 <b>火</b>    | Voice on Voice / 和合亮一 × 田島貴男       |                 |                                 |
| 9 <b>水</b>    | Voice on Voice / 佐藤厚志 × Miya       |                 | ロックツアー                          |
| 10 <b>木</b>   |                                    |                 | 山本卓卓 (範宙遊泳) ワークショップ             |
| 11 <b>金</b>   | 阿房列車<br>思い出せない夢のいくつか               | 日没を祭れ 2023 第二日  | キャメルと塩犬                         |
| 12 <b>土</b>   |                                    | 窓の外の結婚式         | 浪江編 「どんちゃん港」                    |
| 13 <b>日</b>   | クロージングイベント                         |                 |                                 |

フェスティバル・  
フードマーケット

## 地域コーディネーター

地域コーディネーターは、常磐線舞台芸術祭と地域を「つなぐ」架け橋として、準備期間中よりさまざまな活動を実施してきました。本芸術祭の会場となっている各地から、地域に関わる活動に携わっている人、土地や歴史への理解が深い人などが参加しています。



青木淑子 (NPO法人富岡町 3.11 を語る会代表／富岡演劇祭代表)

見えない放射能で奪われた「ひとのつながり」。「つながりたい」という願いがあって、「つながろう」と動いている仲間がいて、「つながった」という確かなものを感じた時、きっと、周りのすべてが明るく輝きます。「どうよ!」という元気な自分が見える。楽しみでしかない!

秋元葉々美 (コーディネーター)

浜通り地域において常磐線のラインは、産業や政治などの面で歴史的にも、現在においても重要な意味合いをもってきました。そんな「常磐線」のつらなりと「舞台芸術祭」が良き化学反応をおこし、この土地に根付き、参加アーティストや観客の皆さん、地域の人たちと一緒に育っていくような時間になるように一スタッフとして努めていきたいと思えます。



宇名根良平 (一般社団法人ふたばプロジェクト事務局長)

震災と原発事故によって一度人口ゼロになった双葉町。復興と復活のためには、たくさんの方のチカラが必要です。まちづくり会社として、時間が過ぎることで震災や町が風化してしまわないよう発信を続けてまいります。常磐線舞台芸術祭によって想い・人・地域がつながってほしいです。

江尻 浩二郎 (打ち聞き家／リサーチャー／ツアーガイド)

皆さんと歩き回りたくと思っています。あなたは参加アーティストでしょうか。またはスタッフ、観客、それともこの沿線の住人でしょうか。何でも構いません。この地を踏み、遠くを見やり、足を出す。誰かと出会い、風景と交じり、その向こうの何かと対峙する。耳を傾け、交流し、響き合い、恐れおののく。そのようなことが次の誰かの作品につながり、そしてその上演は、大いに地域にはみ出してしましてほしいと思っています。





## 大内彩加 (飯館村までい大使／俳優)

ご来場誠にありがとうございます。福島県浜通り出身の私でも、まだ知らない魅力が常磐線沿いには至る所に沢山あると思っています。私の大好きなふくしまを紹介しながら、ご来場頂いた皆さんとその魅力を再発見できれば嬉しいです。美味しいものをお腹いっぱい食べて、自然に触れて、芸術にも触れて、こころをいっぱい満たしてってくださいね。



## 今野 聡 (一般社団法人まちづくりなみえ勤務)

震災と原発事故後、南相馬市に開局した臨時災害放送局「南相馬ひばりFM」のスタッフに従事。市を訪れていた柳美里さんとツイッターを通じて知り合い、地域の皆さんのお話を聴く番組「ふたりとひとり」を6年にわたり閉局まで手がけました。常磐線が仙台までつながった2016年には柳さんと小高の皆さんの電車旅を収録し放送。その喜びを発信しました。次はいよいよこの地から、演劇による発信。とても楽しみにしています。

## 佐藤真喜子 (俳優)

舞台芸術という営みを、この地域にて、つないでいく。  
この場所にある、過去から現在へとつづいている、そして、未来へとむかっていく人々の営みのなかに、そっと静かに、そしてたしかに寄り添うことのできる芸術祭になることを信じて、わたしはわたしらしく、できうる限りをつくしていきたいと考えています。  
みなさまとこの地域にてお会いできることを、心からうれしくおもいます。



## 萩川正道 (一般社団法人ふたばプロジェクト)

震災を経験した者として、その経験から得た教訓を広く世に伝えることの大切さを実感しました。震災を経験していない世代、これから生まれてくる子供たちにもあの日の悲しみと教訓を伝承しつつ、まちづくりに努めます。

## 土方正志 (仙台「荒蝦夷」代表／編集者)

終着駅でお待ちしています



## 平山 “two” 勉 (双葉郡未来会議代表)

柳さんがこの地に来て、蒔いてきた種が全て線で繋がるような、そんな素敵な企画になるような気がします。この繋がりを大切に育んでいきましょうね。

# Goods 公式グッズ

メインビジュアルをはじめ芸術祭のアートディレクションを担当する形山佳之がデザインする公式グッズ。

芸術祭の舞台となる常磐線のラインや、鉄道の切符をイメージしたデザインです。

グッズは会期中、公演会場などにて販売予定。

## T-shirt

※画像はイメージです。デザインは変更になる場合がございます。



切符Tシャツ

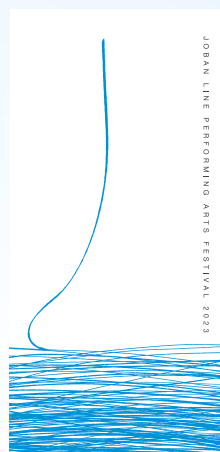
size: S, M, L, XL 3,500円(税込)

## Sticker



切符ステッカー  
(57×30mm)

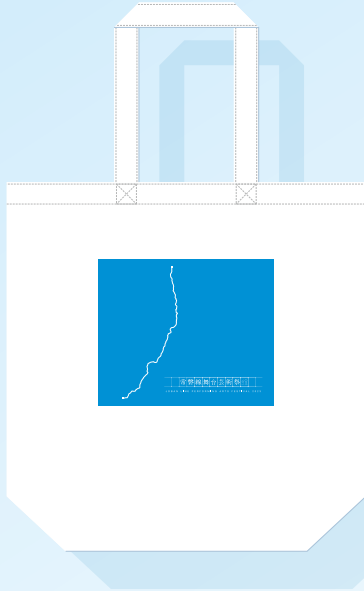
300円(税込)



「線」ステッカー  
(43×90mm)  
300円(税込)

※画像はイメージです。デザインは変更になる場合がございます。

## Tote bag



常磐線ライン  
トートバッグ 1,500円(税込)

## Tenugui



「線」手拭い 1,000円(税込)

## Badge



缶バッジ(円)  
500円(税込)



缶バッジ(角)  
500円(税込)

# 開催概要

## 常磐線舞台芸術祭 2023

### JOBAN LINE PERFORMING ARTS FESTIVAL 2023

#### 第一回テーマ「つなぐ、」

**開催期間** 2023年7月31日(月)～8月13日(日)

**開催地** 福島県、宮城県、茨城県内常磐線沿線、他

#### 参加団体・アーティスト

青森中央高校演劇部／福島県の高校生たち、尾崎世界観(クリーブハイブ)、小松理虔、後藤正文(ASIAN KUNG-FU GENERATION)、佐藤厚志、青春五月党、青年団、田島貴男(Original Love)、津村禮次郎、畑澤聖悟、福名理穂(ぱぶりか)、古川日出男、堀川 炎、Miya、森 幸彦、山本卓卓(範由遊泳)、柳 美里、和合亮一、渡辺源四郎商店、他

**主催** 常磐線舞台芸術祭実行委員会、一般社団法人常磐線舞台芸術祭、一般社団法人OSPA

**プログラム・ディレクター** 柳 美里

**フェスティバル・コーディネーター** 平田オリザ

**プロデューサー** 鄭 慶一、柳 丈陽

**実行委員** 小松理虔、相馬行胤、平田オリザ、古川日出男、柳 美里、和合亮一、いわき芸術文化交流館アリオス

**デザイナー／アートディレクター** 形山佳之

**テクニカルディレクター** 關 秀哉

#### 運営コーディネーター

齋藤夏菜子(福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校)、高山さなえ(青年団・福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校)、久留飛雄己(青年座)

#### 地域コーディネーター

青木淑子、秋元菜々美、宇名根良平、江尻浩二郎、大内彩加、今野 聡、佐藤真喜子、祓川正道、土方正志、平山 勉

#### 後援

福島県、福島市、いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、新地町、宮城県、亶理町、茨城県、北茨城市、青森県教育委員会、国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所、新地町教育委員会

#### 協力

うつくしま浜街道観光推進会議、JR東日本、ぴあ株式会社

**ガイドブック制作協力** 尾形龍太郎

**写真協力** 村上朝晴(p.23)

**広報** 岩中可南子、冠 那菜奈、小仲やすえ、宮崎有里、村上愛佳、山根麻衣子(地域連携)

**事務局** 石幡 愛、小泉実樹、林 慶一、林田古都里、山田裕子

**公式ウェブサイト** <https://joban-line-paf.jp/>

#### お問い合わせ

常磐線舞台芸術祭実行委員会事務局  
〒979-2121 福島県南相馬市小高区東町1-10-5 Rain Theatre内  
TEL:050-1750-3402 (平日10:00～17:00)  
FAX:0244-26-5081  
E-mail:info@joban-line-paf.jp

# Sponsors & Supports 協賛・協力

## 協賛 (50音順)

|                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 浅野燃糸株式会社          | 株式会社諸井緑樹園       |
| 旭興産株式会社           | 株式会社ヨークベニマル     |
| イオンスーパーセンター株式会社   | 株式会社吉武都市総合研究所   |
| 石川建設工業株式会社        | 株式会社ラセンス        |
| 石川恒産株式会社          | クリナップ株式会社       |
| 一般社団法人とみおかワインドメーヌ | 栗原興産株式会社        |
| 小高工房              | 寿建設株式会社         |
| 小高ストア             | JA全農福島          |
| 小高バイオニアヴィレッジ      | JAふくしま未来        |
| 株式会社イマス           | 清水建設株式会社        |
| 株式会社GNH           | 酸塊窯             |
| 株式会社JAふくしま未来サービス  | 関場建設株式会社        |
| 株式会社松月堂           | タニコー株式会社        |
| 株式会社ショウワ          | 東開クレテック株式会社     |
| 株式会社スズトヨ          | 東双みらい製造株式会社     |
| 株式会社相馬企業サービス      | 東北アクセス株式会社      |
| 株式会社第三文明社         | 東北商事株式会社        |
| 株式会社ダイナム          | 豊川建設株式会社        |
| 株式会社ダイユーエイト       | 双葉屋旅館           |
| 株式会社東武            | ブライダル&ホテル ラフィース |
| 株式会社中原商事          | フルハウス           |
| 株式会社日建            | 文化住宅機器株式会社      |
| 株式会社ニラク           | 有限会社エムアンドケイ     |
| 株式会社野馬追の里         | 有限会社菓詩工房わたなべ    |
| 株式会社原町サイン         | 有限会社今野畜産        |
| 株式会社プロジェクトK       | 有限会社富士タクシー      |
| 株式会社北洋舎クリーニング     |                 |

## 協力



うつくしま浜街道観光推進会議

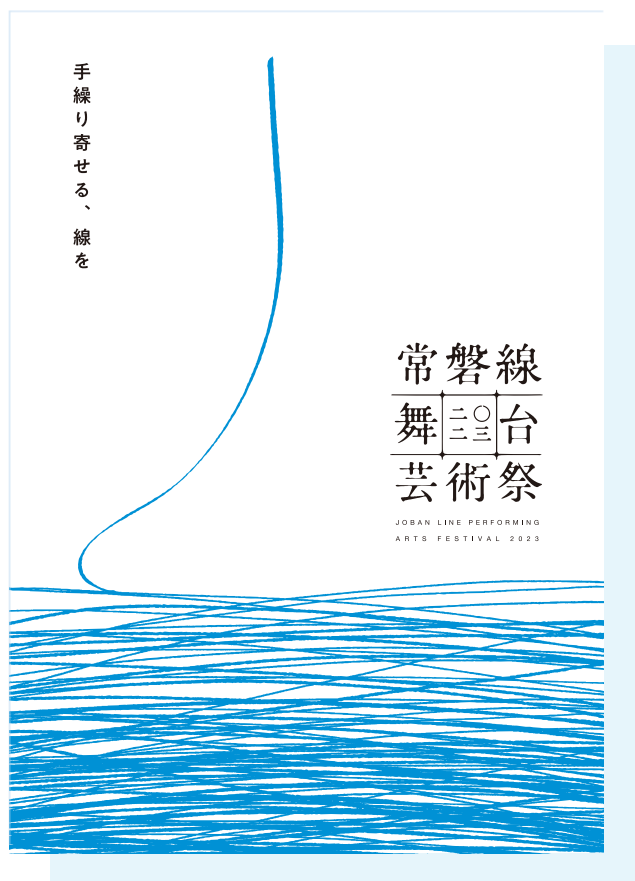


JR 東日本水戸支社



チケットぴあ

# Visual Concept



津波、地震、原発事故、  
なんとなく触れてはいけないものが福島にはあると思っていました。  
そのイメージが様々な「線」を無意識に作っていたのかもしれない。

今は穏やかとなった海から、ゆっくりと手練り寄せる線。  
それは東京と宮城を繋ぐ常磐線と、  
複雑に絡み合ってしまう輪郭を失った「線」を表現しています。

常磐線舞台芸術祭という一本の線が  
新たな人と人、そして福島浜通りと世界を繋げる  
「線」となるよう願いを込めて。

デザイナー/アートディレクター 形山佳之

